

Mito

広報みと

令和6(2024)年

9.1

No.1581
特集号

力士とは

さむらい

力の士である

明治維新に伴う近代化の中、衰退の一途を辿っていた大相撲の
人気を回復させ、相撲を国技と呼ばれるまでに押し上げた力士・
常陸山。

その相撲は、相手に十分に力を出させてからねじ伏せるという、
まさに「横綱相撲」の手本であった。

技量だけではなく、品格も求め続けたその精神は、旧水戸藩士
の家に生まれたことによる武士道の精神からくるものだった。

日露戦争後、排日運動が高まるアメリカにおいて、ルーズベル
ト大統領に面会し、ホワイトハウスで行った土俵入り。

常陸山の功績から始まった国技館の建設計画。

一人の力士としての枠を超え、相撲界、そして日本を背負って
生きた男の物語。

「技量」だけでなく、
「品格」も重んじた横綱

特集

角聖と呼ばれた男

常陸山谷右衛門生誕150年

力や技よりも 心を鍛える

明治36年5月場所9日目。常陸山と梅ヶ谷の両大関の取組は、ともに土つかずの全勝対決となった。

満員の会場では、大歓声が沸き起こり、興奮と熱気で包まれている。

両者向き合い、手をついて勢いよく立ち上がる。いい形になったのは梅ヶ谷。素早く常陸山の両脇に自分の両腕を差し入れて寄り立てる。一方、怪力を誇る常陸山は、梅ヶ谷の両腕を外側から抱え込んで動きを封じる。それでも梅ヶ谷は、攻撃の手を緩めず寄り進む。土俵際まで詰め寄せられた常陸山は、体を左右に振って右に回り込み突き放す。一瞬、梅ヶ谷の体が浮いて離れたところに突っ張りを繰り出し、梅ヶ谷が体勢を立て直す前に攻撃の手を緩めず突き倒した。

この場所後、常陸山の横綱昇進が決まった。

しかし、常陸山は実力が互角の梅ヶ谷も横綱にふさわしいと相撲協会に願出たことで、同時昇進を果たすこととなった。

明治の大相撲黄金期「梅常陸時代」の始まりである。

Taniemon Hitachiyama
常陸山谷右衛門
■第19代横綱

天性の能力に加えて努力を重ねる

常陸山は、明治7年1月19日に旧水戸藩士・市毛高成の長男として生まれた。

水戸中学（現在の県立水戸一高）に進学するも運送業をしていた父の経営が悪化し中退。16歳の時、東京専門学校（現在の早稲田大学）進学を目指し、同校で剣道師範をしていた叔父を頼って上京する。

叔父は常陸山に竹刀で稽古をつけたところ、竹刀が折れるほどの腕力に驚き、力試しに巨石を持ち上げさせてみると、20貫（75kg）、40貫（150kg）、60貫（225kg）の石を次々と担ぎ上げた。

これに驚いた叔父は、力士になることを勧め、明治24年に東京相撲に所属している常陸山虎吉に弟子入りした。

常陸山は一日も早く幕内力士になりたいと懸命に稽古に取組み、明治25年5月場所序の口16枚目になると、その後も序二段、三段目、幕下へと順調に昇進した。

本格的な力士として歩みはじめた明治28年、これまで所属していた東京相撲を突如離脱、名古屋相撲、さらに大阪相撲へと移る。地方相撲で活躍していた常陸山だったが、東京相撲への復帰を望む周囲の声を聴き入れ、明治30年に復帰する。

相撲に対する哲学と 信条が人々を魅了する

東京相撲復帰後、圧倒的な強さで好成績を残し、明治34年5月場所で大関に昇進する。常陸山の活躍により、会場には多くの客が詰めかけるようになり、華族や将校、外国人などの姿も目立つなど、大相撲人気は一気に上昇した。

常陸山の人気の理由は言うまでもなく拔群の強さにあった。しかしそれだけではなく、常陸山ならではの相撲に対する姿勢があった。それは「勝負は時の運」という相撲哲学と「相手の押しをかわさない」という信条である。

常陸山は、勝ちにこだわることはしなかった。「勝負は時の運で、どうなるか分かるものではない。勝つと思つた相撲に負け、困難だと思つた取組にあつさり勝つこともある。」と言いつつ、どれだけ見応えのある相撲を取るかということにこだわった。

勝ちを求めず、つまらない相撲をとっては観客は興ざめしてしまう。相手の押しをかわすようなことはせず、しっかりと受け止め、攻められても余裕を持ってしのぎ、圧倒することを美徳としていた。

この正々堂々と挑む姿に観客は魅了されたのである。

力士の意識改革と 品格向上に努めた志

常陸山は、侍としての生き方を大切にしています。そこには、代々水戸藩に仕える武家に生まれたことが関係しています。

力士としての才能を見抜いた叔父は、常陸山の父に相撲界入りを勧めましたが、「武家であった市毛家から裸踊りのような力士を出すことはできない。」と猛反対されてしまいます。それでも叔父は諦めず、周囲の協力を得ながら辛抱強く説得したことで、何とか許してもらうことが

できました。

このようなことがあったからこそ、常陸山は「相撲は野蛮なもの」という偏見を払拭するため、力士は武士道を重んじ、品格を身につけなければならぬと考えるようになったのです。

しかし、当時の相撲界は、自分をひいきにしてくれる客の席を回って酒杯を受ける「棧敷回り」など、力士本来の務めとはかけ離れた習慣がありました。

その背景には、明治維新後の廃藩置県が影響しています。大名のお抱え力士として保障されていた身分が、廃藩置県によってなくなってしまうため、力士たちは経済的に支援してくれるひいき客の機嫌を取ることを気にするようになります。本業がおろそかになっていったのです。

この状況を憂っていた常陸山は「酒をつぐのが力士の仕事ではない。力士は相撲で勝負するものだ。」として、この習慣を廃止します。「力士は人間として紳士らしく振る舞わなければならぬ。普段の生活も礼節をわきままえ、一般の人へも礼儀正しく接しなければならぬ。」と論じ、力士の意識改革とともに品格向上に努めていきました。

相手に感謝し、土俵に感謝し、師匠に感謝する。謙虚さに裏打ちされた、清く正しく美しい気高さが、力士の品格であるという考えは、今の相撲界にも浸透しています。相撲が国技と呼ばれるようにまできたのは、常陸山の功績によるものなのです。



市村 眞一さん
■県近現代史研究会名誉会長

常陸山生誕150年記念事業

常陸山生誕150年記念事業

水戸市出身の伝説の横綱・常陸山について学ぼう

常陸山の功績や相撲の歴史、魅力について学ぶイベントです。

事前予約制 抽選 300名

2024.9.25(水) 13:00 ~ 15:00

会場 城東小学校



二所ノ関親方

城東小学校
児童による
学習発表

常陸山
トーク
セッション

ゲスト 二所ノ関親方(第72代横綱稀勢の里)
市村眞一(県近現代史研究会名誉会長)
酒葉誠(城東小学校教諭)
藤井達也(市立博物館学芸員)

申込み

右記の二次元コードまたは往復はがきに必要事項を記入し、申込んでください



申込期限

9月10日(火)(必着)
※抽選結果は、郵送で、申込者全員(代表者)にお知らせします。

問合せ

歴史文化財課(☎306-8132)

表面		裏面
63円切手	310-8610 水戸市歴史文化財課行	水戸市中央1-4-1
		常陸山イベント参加申込み
		①氏名(ふりがな・複数名可)
		②住所(代表者)
		③電話番号(代表者)
		④年齢(全員)
		⑤性別(任意)

常陸山生誕150年記念 特別展

常陸山谷右衛門一「角聖」の生きた時代一

常陸山が生きた明治・大正時代に焦点を当て、生涯を辿りながらその功績を紹介します。出身地である水戸や茨城との関わりも取り上げます。

2024.10.19(土) ~ 11.24(日)

※月曜日(祝日のときは翌日)休館。

会場 市立博物館



那珂川で船に乗る常陸山

料金

一般200円(20名以上の団体150円)
無料…18歳以下の方、65歳以上の方
身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者とその付き添いの方(1名)

展示解説

10.20(日)、11.3(日)、16(土)、24(日)
各日とも11:00から、14:00から
※申込不要。会場にお集まりください。

問合せ

市立博物館(☎226-6521)

常陸山生誕150年記念

オリジナルデザイン商品販売!

記念どら焼き 価格 1個230円

販売店舗 亀じるし本店
エクセルみなみ店
那珂インター店

亀印製菓株式会社(☎080-0080-1431)

販売時期
9.25から

記念酒

吉久保酒造株式会社
(☎224-4111)
明利酒類株式会社
(☎247-6111)

販売時期
9月以降



水戸の誇りを 取り戻す無敵の強さ

常陸山は、明治時代の相撲の最盛期を支えた人物です。
明治時代後期はメディアが発展してきた時期でもあり、無敵を誇った常陸山の活躍が知れたこと、相撲界の地位も確立されていきました。常陸山が活躍していた時期は、ちょうど日清・日露戦争の頃で、日本の勝利とともに、日本固有の文化に注目が集まるようになったことも、大相撲の人気の拍車がかかった理由でもありました。

水戸藩では、尊王攘夷思想などで幕末の政治史を大きく動かしましたが、激しい藩内の抗争で、多くの優秀な人材を失いました。そのため、明治の新时代に人材を送り出すことができず、水戸の人々はコンプレックスを抱いていました。そのような中、常陸山の活躍は、水戸の人々に勇気や希望を与えたものと想像されます。
明治に入ると日本は外国との交流も盛んになり、日本人が海を渡ることが、特に珍しいことではありませんでした。「日本人はひ弱で野蛮な人種」という差別意識が強く残っていました。この状況の中、常陸山はアメリカへ渡り、ルーズベルト大統領の前で土俵入りを披露します。アメリカの人たちに日本人の力強さや礼儀正

しきを見せ、偏見の解消に努めたことは、常陸山の大きな功績の一つでもあります。
大相撲の人気の伴い、会場には多くの人たちが駆けつけるようになりました。このため、もっと多くの人を収容できる会場が必要となり、常設館を建設しようとする機運が高まります。これまでの会場は臨時の施設であったため、雨漏りがひどくて中止や延期となることが度々あり、また、興行ごとに建設と取壊しを繰り返すなど、非常に不便なものでした。このため、新たな常設館の必要性は誰もが理解していましたが、莫大な費用がかかることから実現には至っていませんでした。
国技館は明治42年に完成しますが、その背景には、全盛を迎えた大相撲の人気があり、その礎を築いたのが常陸山なのです。

海を渡った伝統文化が 親善を深める

明治40年8月、常陸山は3人の弟子を連れてアメリカに渡り、セオドア・ルーズベルト大統領に面会。ホワイトハウスで土俵入りを披露した。力士がアメリカ大統領と会うのは初めてのことであった。
集まった観客は、想像していた日本人とは全く異なる力士の大きな体格に目を見張り、力士同士がぶつかる音の大きさ、迫力のある取組に興奮し、その一挙一動に注目した。この出来事は大きな話題となり、ルーズベルト大統領が相撲を観覧したというニュースがアメリカ中に広まった。
しかしなぜ、横綱とはいえ一力士に過ぎない常陸山が大統領に会うことができたのだろうか。
当時アメリカでは、日露戦争後に力をつけてきた日本に対する警戒心から、日本移民への排斥運動が激しくなり、日本とアメリカの関係が著しく悪化していた。そのような中、かねてから貴族院議長このあつの近衛篤磨から外遊を勧められていた常陸山は、両国の親善に貢献するという期待を受けて海を渡ったのである。



藤井達也さん
市立博物館学芸員



清水 毅史さん
■水戸農業高校相撲部(2年)

おも
想いを受け継ぐ
孤高の力士

水農の相撲場では、小学生から大人までが一
緒になり、指導者の掛け声のもと、腰割りや四
股、すり足などの基本運動を一時以上かけて
入念に行い、全員の体から玉のような汗が吹き
出ています。
熱気がこもる場内において、一人黙々と励ん
でいるのが、相撲部で唯一の男性部員、清水毅
史さん(2年)です。清水さんは、国体強化指定
選手の候補に選ばれ、二子山親方(雅山)が稽古
を見に来るほど注目されています。清水さんが

が鍛えられ、ぶれない体となり、上体の力を活
かすことができるようになります。清水さんは、
この基本運動の重要性を理解し、日々稽古に励
んでいるのです。

また、相撲部OBの存在も欠かせません。

部員が少ないため、平日は筋力トレーニング
が中心となりますが、週末には経験豊富なOB
たちの胸を借り、体のあたり方や圧力のかけ方
などの実戦的な技術を身につけます。

「相撲は体だけでなく、心を鍛えるもの。厳
しい稽古をとおして、上下関係や礼儀が学べま
す。人として大切な精神を身につけることがで
きるスポーツです。」と話すOBの田上慎司さん。
自分たちと同じように相撲に情熱を注ぐ清水さ
んを厳しく、そして優しく見守ります。
清水さんは、「今の自分があるのは、支えて

これほどの実力をつけた
理由は、どこにあるので
しょうか。
副顧問の阿部穂高先生
は、「とにかく真面目で努
力家。常に向上心を持ち
続けており、どんな稽古
も決しておろそかにする
ことはしない。」と高く評
価します。

体と体が激しくぶつか
り合う相撲においては、
特に下半身が重要。四股
などの基本運動を毎日続
けていくことで、下半身

くれた人たちのおかげ。大きな大会に出場して
もつと実力をつけていきたいです。そして、こ
こで学んだことをいかして人に尽くせる人間に
なりたいたいです。」と力強く話しました。
常陸山が目指した力士のあるべき姿が、
水農相撲部にもしっかりと受け継がれている。



水農相撲部と水戸尾曾相撲道場の皆さん

通算幕内成績150勝15敗22引き分け2
預かりという驚異的な記録を残した常陸山
は、大正11年6月19日、48歳の若さでその
生涯を閉じる。

長年の相撲界の功績により、相撲協会は、
史上初の協会葬を国技館で行った。

常陸山は、現役時代から弟子の指導を任
され、事実上の親方であった。その指導は、
厳しいものであったが、それは大切な弟子
たちに大けがをさせたくないという親心か
らくるものであった。

常陸山は、故郷・水戸を愛する人でもあつ
た。大正7年に起きた水戸の大火災では、
一日も早い復興を願って水戸で巡業を行っ
たほか、備前堀に架かる古い橋を私財を投
じて架け替えるなど、力を注ぐことを惜し
まなかった。

人に敬われる行動を取ること、人間的
に強くなり、力士として強くなる。

「力士とは力の士である——。」

その精神を持ち続けた常陸山だからこそ、
今もなお、「角聖」として語り継がれている
のである。

問合せ 歴史文化財課(☎306-8132)